

人口減少対策に係る「若者座談会」の取組結果(速報版)

令和8年9月9日
ふくしま創生・人口戦略有識者会議
(事務局：復興・総合計画課)

福島県若者座談会（会津）



特集

大学生・社会人と対話する初の試み
「福島県若者座談会」
実施しました

福島県若者座談会とは？

浜通り・中通り・会津地域の3地域で、各地域出身の大学生（首都圏・隣県・県内に所在する大学の1・2年生）や、若手社会人（高校卒業後に県内外に就職した社会人1・2年目）が参加する座談会です。
この資料では会津地域で開かれた会の様子をお伝えします。

実施場所・日時・参加人数

会津地域では、8月18日（火）に会津稽古堂で開催されました（昼食をはさんで12時から15時すぎまで実施）。

6名の参加者（会津出身者）と、県のインターンプログラムに参加している大学生4名が一緒に、対話を通じた意見出しを行いました。

プログラムの概要

福島県からの挨拶と会の趣旨説明のあと、グループに分かれて会場付近を歩きました。ランチを食べながらお互いの普段の生活や、関心があることなどを和やかに聞きあいました。

会議室に再集合した後は、緊張をほぐすためのプログラムを行い、参加者同士で交流したり、共同作業をする中で、「円滑なコミュニケーションにはお互いが共有できる言語や表現を持っていること」が大事だということを学びました。

続いてのプログラムでは、令和7年度と8年度に実施したアンケート調査を「アクティブ・ブック・ダイアログ®」という手法で分担して読み込み、参加者と共有しました。

次に「グループインタビュー」として、福島県の良さ、Uターン意向・障壁、理想の地域とのつながり方などのテーマについて、自由に意見を出し合い、共有しました。

アクティブ・ブック・ダイアログ®



全体で70ページほどあるアンケートの報告書について、同じグループの参加者で分担して読み（インプット）、そこから読み取ったこと、感じたことをA5の紙にまとめて参加者同士で発表する（アウトプット）を行う、という読書法です。「対話」の場ではありますが、その前提として、議論の焦点である「福島県出身の若者の声」についてしっかり学び、知ることが対話の「スタート」です。

右はグループで共有している様子です。若者それぞれの視点で何が大事だと思ったかは異なります。その違いも楽しみながら進めます。



グループインタビュー

参加者一人ひとりに福島県に対する思い（良いところ）、Uターン意向の有無、戻るとききの障壁や、福島県との理想のつながり方についてじっくり聞き、模造紙にまとめました。

なお、プログラム全体について、福島大学の岩井秀樹特任教授にも入っていただいています。

岩井先生のお話を踏まえ、若者それぞれの思い、発言の背景には何があるかという視点を持ちつつ対話を進めます。



参加者 （出身地）	福島県の 好きなところ	Uターン意向有無 （Uターンの障壁）	理想のつながり方
A （会津美里町）	土地（風土）が好き	今はない（働きたい職場があれば、企業がわからない、力を活かせる場がない）	盆や正月は実家が良いい親族の健康確認をする
B （南会津町）	四季、自然が好き	ある…けど（買い物は都会でしたい、公共交通が不十分で利便性が低い）	地元の友達と会う 祭りに参加する
C （会津若松市）	ぼんやり（ゆっくり）することができる	あると言えばある（今は基本自転車移動していて、車移動はイベント）	家族に会いに帰省する 県外出身者に会津土産 喜多方ラーメンを渡す
D （南会津町）	会津大学がある	30年後くらいに戻りたい（それまでは、仕事が多いという理由で「関東」にいたい）	家族や友達とのつながりを維持する
E （会津若松市）	自分好みの忙しさ 気候・風土	意向はあるが、しなくてもよい（ショッピングセンターができるならどこでもよい。理由にならない理由としての生まれ育った地元）	親族や友達に会う イベントに参加する 県内ニュースを見る
F （北会津）	自然が良い、静か、 果物が多い	戻らない可能性大（会津以外のほうが良い仕事がありそう、趣味のイベントなどが関東に多い）	大学のサークルで浜通りでボランティア 長期休暇は両親に会う

会津の若者の共通点・個性的な意見

参加者一人ひとりの意見をベースに、会津出身の若者の共通点（パターン）を集約しました。また、個性的な意見（ユニーク）についても整理しました。



	共通点 （共通した数）	個性的な意見
好きなところ	・自然豊かな（5） ・人の温かさ（2）	・現代社会時間軸の休息地 ・食
Uターンの障壁	・公共交通（5） ・仕事（3）	・各機能（店、映画等）へのアクセス ・流行に弱い
理想のつながり方	・折々の帰省で家族に会う（5） ・友人と会う（2）	・外から福島を発信する ・ふるさと納税 ・ボランティアに参加する

※この表はインターン4名の意見も含む

福島県若者座談会（中通り）



特集

大学生・社会人と対話する初の試み
「福島県若者座談会」
実施しました

福島県若者座談会とは？

浜通り・中通り・会津地域の3地域で、各地域出身の大学生（首都圏・隣県・県内に所在する大学の1・2年生）や、若手社会人（高校卒業後に県内外に就職した社会人1・2年目）が参加する座談会です。
この資料では中通り地域で開かれた会の様子をお伝えします。

実施場所・日時・参加人数

中通り地域では、8月19日(水)に Fukushima-Base で開催されました(昼食をはさんで12時から15時すぎまで実施)。
9名の参加者(中通り出身者)がグループに分かれて、対話を通じた意見出しを行いました。

プログラムの概要

福島県からの挨拶と会の趣旨説明のあと、グループに分かれて会場付近を歩きました。ランチを食べながらお互いの普段の生活や、関心があることなどを和やかに聞きあいました。

会議室に再集合した後は、緊張をほぐすためのプログラムを行い、参加者同士で交流したり、共同作業をする中で、「円滑なコミュニケーションにはお互いが共有できる言語や表現を持っていること」が大事だということを学びました。

続いてのプログラムでは、令和7年度と8年度に実施したアンケート調査を「アクティブ・ブック・ダイアログ®」という手法で分担して読み込み、参加者と共有しました。

次に「グループインタビュー」として、福島県の良さ、Uターンの意向・障壁、理想の地域とのつながり方などのテーマについて、自由に意見を出し合い、共有しました。

アクティブ・ブック・ダイアログ®



全体で70ページほどあるアンケートの報告書について、同じグループの参加者で分担して読み(インプット)、そこから読み取ったこと、感じたことをA5の紙にまとめて参加者同士で発表する(アウトプット)を行う、という読書法です。
「対話」の場ではありますが、その前提として、議論の焦点である「福島県出身の若者の声」についてしっかり学び、知ることが対話の「スタート」です。

右はグループで共有している様子です。若者それぞれの視点で何が大事だと思ったかは異なります。その違いも楽しみながら進めます。



グループインタビュー

参加者一人ひとりに福島県に対する思い(良いところ)、Uターン意向の有無、戻るときの障壁や、福島県との理想のつながり方についてじっくり聞き、模造紙にまとめました。

なお、プログラム全体について、福島大学の岩井秀樹特任教授にも入っていただいています。

岩井先生のお話を踏まえ、若者それぞれの思い、発言の背景には何があるかという視点を持ちつつ対話を進めます。



参加者 (出身地)	福島県の 好きなところ	Uターンの障壁	理想のつながり方
A (泉崎村)	自然が豊か 水が美味しい、星が綺麗	交通の便が悪い 交通費が高い	イベントごとに帰省 福島の特産品を届ける
B (白河市)	ちょうどよい発展 ご当地の食べ物	就職の選択肢が少ない 医療機関の不足	年数回帰省し、家族や友達 とご飯を食べる
C (郡山市)	果物が美味しい 地域の人と話しかけてくれる	交通の利便性が低い 遊ぶ場所が限られる	福島の特産品を食べる
D (天栄村)	自然が豊か 行政の支援が充実	車の免許が必要 仕事の環境、収入、教育環境	年数回帰省し、友人と会う
E (郡山市)	商業施設の進出など、まちの発展 お祭りなどの文化	公共交通機関の不足 物価は低い、収入が少ない?	今の福島を知る イベントで帰省
F (郡山市)	東京へのアクセスが比較的良い	経験の場や、学べることが限られている、収入が少ない	昔話ができる友人と、地元で同窓会
G (福島市)	人口・都市機能がちょうどよい	福島出身者以外が福島に住もうと思う魅力が少ない	福島出身者につながる機会がある
H (白河市)	混雑していなくて住みやすい	都会の華やかさはない 職業の選択肢が少ない	家族と情報交換し、帰省
I (猪苗代町)	アウトドアを楽しめる	福祉関連の仕事/サービスの不足	地域に関わる仲間を増やす

中通りの若者の共通点・個性的な意見

参加者一人ひとりの意見をベースに、会津出身の若者の共通点(パターン)を集約しました。また、個性的な意見(ユニーク)についても整理しました。



	共通点 (共通した数)	個性的な意見
好きなところ	・自然豊か(4) ・食べ物(2)	・人が多すぎない ・人とつながれる
Uターンの障壁	・公共交通(4) ・仕事(3)	・経験が積みづらい ・住もうと思う魅力が少ない
理想のつながり方	・イベント/祭り(3) ・友人と会う(3)	・住み続けたい ・福島を離れても、同郷で集まるイベントがある

福島県若者座談会（浜通り）



特集

大学生・社会人と対話する初の試み 「福島県若者座談会」 実施しました

福島県若者座談会とは？

浜通り・中通り・会津地域の3地域で、各地域出身の大学生（首都圏・隣県・県内に所在する大学の1・2年生）や、若手社会人（高校卒業後に県内外に就職した社会人1・2年目）が参加する座談会です。

この資料では浜通り地域で開かれた会の様子をお伝えします。

実施場所・日時・参加人数

浜通り地域では、8月20日（木）にいわきアリオスで開催されました（昼食をはさんで12時から15時すぎまで実施）。

8名の参加者（浜通り出身者）がグループに分かれ、対話を通じた意見出しを行いました。

プログラムの概要

福島県からの挨拶と会の趣旨説明のあと、グループに分かれて会場付近を歩きました。ランチを食べながらお互いの普段の生活や、関心があることなどを和やかに聞きあいました。

会議室に再集合した後は、緊張をほぐすためのプログラムを行い、参加者同士で交流したり、共同作業をする中で、「円滑なコミュニケーションにはお互いが共有できる言語や表現を持っていること」が大事だということを学びました。

続いてのプログラムでは、令和7年度と8年度に実施したアンケート調査を「アクティブ・ブック・ダイアログ®」という手法で分担して読み込み、参加者と共有しました。

次に「グループインタビュー」として、福島県の良さ、Uターンの意向・障壁、理想の地域とのつながり方などのテーマについて、自由に意見を出し合い、共有しました。

アクティブ・ブック・ダイアログ®



全体で70ページほどあるアンケートの報告書について、同じグループの参加者で分担して読み（インプット）、そこから読み取ったこと、感じたことをA5の紙にまとめて参加者同士で発表する（アウトプット）を行う、という読書法です。「対話」の場ではありますが、その前提として、議論の焦点である「福島県出身の若者の声」についてしっかり学び、知ることが対話の「スタート」です。

右はグループで共有している様子です。若者それぞれの視点で何が大事だと思ったかは異なります。その違いも楽しみながら進めます。



グループインタビュー

参加者一人ひとりに福島県に対する思い（良いところ）、Uターン意向の有無、戻るときの障壁や、福島県との理想のつながり方についてじっくり聞き、模造紙にまとめました。

なお、プログラム全体について、福島大学の岩井秀樹特任教授にも入っていただいています。

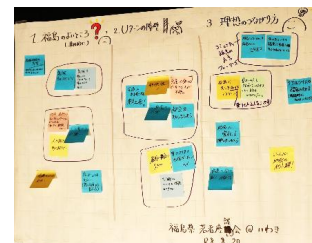
岩井先生のお話を踏まえ、若者それぞれの思い、発言の背景には何があるかという視点を持ちつつ対話を進めます。



参加者 (出身地)	福島県の 好きなところ	Uターン意向有無 Uターンの障壁	理想のつながり方
A (いわき市)	気候がちょうどよい	大学卒業後は戻ってきたい	福島の「今」を知り続ける
B (いわき市)	綺麗な空気、青い海	戻らない 定年後は地元に戻りたい	離れていても同郷の人とつながる場がある
C (いわき市)	地域の人とのつながりがある	福島に住み続け、発展を感じたい 魅力を堂々と伝えたい	SNSを活用魅力発信 県外の人と福島をつなげる
D (いわき市)	気候（晴れ、雪がない）	就職はわからない 子育てはいわきでしたい	「住む」にとらわれない ふるさと納税
E (いわき市)	人と人のつながりが強い	Uターンしたい 公共交通が不便、娯楽の不足	年の節目は帰省 就職後は住んで支える
F (いわき市)	食べ物が美味しい 気候（夏涼しく、冬暖かい）	働き方や企業の選択肢が少ない 地域から干渉されすぎてしまう	福島を軸に都会とつながり、魅力を発信する
G (いわき市)	人があたたかい 海が見える景色が好き	働きたい企業がない、知らない 子どもが多い地域で子育てしたい	イベントに参加 地元の宣伝をする
I (二本松市)	水と空気が美味しい 空が綺麗	雇用の機会が少ない、雇用形態が限られる 娯楽が少ない	地域のイベント運営をしたい

浜通りの若者の共通点・個性的な意見

参加者一人ひとりの意見をベースに、浜通り出身の若者の共通点（パターン）を集約しました。また、個性的な意見（ユニーク）についても整理しました。



	共通点 (共通した数)	個性的な意見
好きなところ	・気候(2) ・人とのつながり(3)	・方言 ・常磐もの ・海が綺麗
Uターンの障壁	・公共交通(5) ・仕事(3)	—
理想のつながり方	・福島の外でつながる(2) ・福島の良さを発信(2)	・リアルタイムの福島を知る ・地域のイベント運営をする ・住んで働く

福島県若者座談会（オンライン）

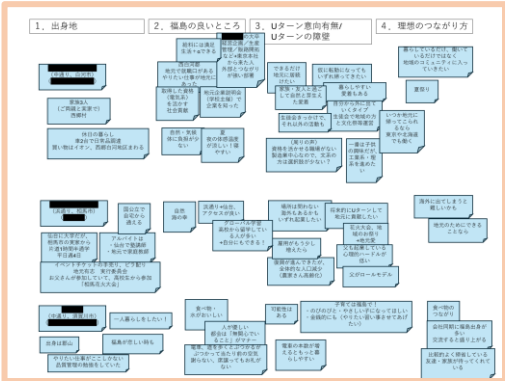


大学生・社会人と対話する初の試み
「福島県若者座談会」
実施しました

福島県若者座談会とは？

浜通り・中通り・会津地域の3地域で、各地域出身の大学生（首都圏・隣県・県内に所在する大学の1・2年生）や、若手社会人（高校卒業後に県内外に就職した社会人1・2年目）が参加する座談会です。

この資料ではオンラインで開かれた会の様子をお伝えします。



実施場所・日時・参加人数

プログラムの概要

日程・場所・参加者数

今回は、8月24日(月)にZoomで開催されました(18時半～20時まで)。平日夜の開催で、お仕事後の方もいらっしゃいました。ご参加いただきありがとうございました。
3名の参加者がオンライン上で、対話を通じて意見出しを行いました。

福島県からの挨拶と会の趣旨説明のあと、自己紹介を実施。最初のプログラムでは、令和7年度と8年度に福島県出身者を対象として実施した、アンケート調査の結果が紹介され、高校卒業後の進路の傾向や、Uターンの意向、障壁などについて学びました。
次に「グループインタビュー」として、福島県の良さ、Uターンの意向・障壁、理想の地域とのつながり方などのテーマについて、自由に意見を出し合い、共有しました。

グループインタビュー

参加者一人ひとりに福島県に対する思い(良いところ)、Uターン意向の有無、戻るときの障壁や、福島県との理想のつながり方についてじっくり聞き、リアルタイムで資料にまとめました。

参加者 (出身地)	福島県の 好きなところ	Uターン意向有無 Uターンの障壁	理想のつながり方
A (西郷村)	地元で、取得した資格を活かす企業がある 気候(夏が涼しく、過ごしやすい)	できるだけ地元で居続けたい 転勤になってもいずれば帰ってきたい 製造業が中心で、文系が就職する際、選択肢が少ないのではないかな	暮らすだけ、働くだけでなく、夏祭りに携わるなど、地域のコミュニティに入っていきたい
B (相馬市)	自然が豊か、海の幸が美味しい 浜通りは仙台とのアクセスが良い	将来的にはUターンしたい 起業も視野に、地域に貢献したい 復興は一定進んできたが、全体的な人口減少で、雇用が少ないのでは	例えば海外に出てしまうとハードルは上がるが、地元のためにできることをしたい
C (須賀川市)	水・食べ物が美味しい 人が優しい(都会は無関心、冷たい…)	Uターンする可能性はある 子育ては福島でしたい 電車の本数が増えると暮らしやすいのでは	頻繁に帰省！ 会社の中でも福島出身者で交流して、盛り上がる食べ物でのつながり